

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470300530		
法人名	有限会社友の里		
事業所名	グループホーム友の里		
所在地	三重県鈴鹿市長沢町1750-1		
自己評価作成日	令和3年3月10日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigvosvoCd=2470300530-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和 3 年 3 月 25 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域に密着した家庭的な場所で、その人らしく 日常生活を送っていただくこと。一日の流れ「メリハリ」のある生活の支援、個人個人に役割を持っていただき、生きがいや楽しさを感じていただけるよう支援する事を心掛けている。1年を通し、常に季節を感じていただくため、季節ごとの野菜や果物を栽培し、季節の移り変わりを感じていただけること。またその野菜や果物を収穫しおやつや総菜にして収穫の楽しさを感じていただけるように支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は畑や木々に囲まれた緑豊かな環境の中に立地している。リビングの窓から庭を眺めれば、利用者や職員が育てた花・野菜・果樹を見る事が出来、野菜等の成長を見る事で四季の移り変わりを感じる事が出来ている。また四季折々の環境の中で、一人ひとりの笑顔の写真を撮って利用者と職員とで手作りのアルバムを作り、「一生の思い出が出来た」と本人はもとより家族にも喜ばれている。また、利用者が事業所内の生活の中で入居前の日常生活を維持するために、掃除や野菜作り等を職員と一緒に個々の役割をもってする事は、生き甲斐が持て楽しく笑顔がある生活であり、利用者が本来の自分のペースで暮らしている姿が見られる。まさしくその方らしい生活を送ってもらうような支援を実践している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ゆっくり楽しくのんびりを共有し、利用者様が自分らしく安心して生活が出来るように日頃から実践している。	利用者が一日の流れを大切にしながら、自分らしい生活を継続できるように全職員が理念を共有している。利用者の意向や思いを話し合い、より良い支援の実践により、利用者個々に生活のリズムが出来ており、楽しみを感じて笑顔で生活している姿が見られる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域自治会とのつながり、関わりを持ち、地域の一員として貢献できるように話し合っている。	地域の方から野菜や果物等の野菜を頂いたりして、地域とのつながりはコロナ禍でも出来ている。また面会及び訪問の制限をしているが、コロナウイルス感染予防策を充分に取りながら近隣への散歩に出かけ、声を掛け合う等の交流はしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民や運営推進会議、自治会との関わりで認知症高齢者の介護について話している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度、運営状況や利用者様の状況を確認して頂いたり報告をさせて頂いている。今年度は新型コロナウイルス感染予防として中止しているが自治会には報告している。	事業所の報告をし地域の情報を頂いたり、必要な情報交換の場として有意義な会議となっていたが、コロナウイルス感染症対策に従い開催できていない。市役所や構成員には、事業所の様子や今後の予定等を紙面で報告をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域の自治会長、民生委員、包括の方に定期的な情報を伝えている。	市や包括支援センターが主催の研修に参加し、課題を全職員に伝えて資質向上に努めているが、コロナ禍で中止や延期になっている。コロナウイルス感染症対策の指導やワクチン予防接種等について連絡等を頂き、協力関係は築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎日「朝 夕」の申し送り、職員会議等で話し合い、職員全員が意識して介護業務に従事している。	全職員が「身体拘束のない支援」を理解・共有し、そっと寄り添った支援をしている。「ヒヤリハット事例検討」や「身体拘束ゼロの手引き」を基本にして、職員会議で研修をしており、身体拘束になる事例はない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者本位を心掛け常に利用者様に目を向け、身体や体調に異常がないかを気付き大切に介護している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じて関係者と話し合い、なおかつ必要に応じ職員全員が理解するように話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の重要事項説明書と利用契約書の内容について説明をしている。施設内の様子や日頃行っている行事なども説明し、疑問点や不安な点等納得していただけるよう説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃のコミュニケーションを中心に意見聴取に努めている。月1度利用者様の施設での様子をお便りで報告し、何時でも来所していただけるように連携を図っている。	月1回定期便りを発行し利用者の現状を掲載、毎月の請求書と共に郵送している。今年度、コロナ禍で面会制限をした時期に対策としてDVDの発信、家族から「コロナ禍で面会に行けなかったが、施設の様子をDVDで発信して頂きありがたい」と喜びの声が聞けた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に介護業務に関わり、職員の意見や提案を聞いている。	毎月1回、職員会議を開催している。申し送りノートや会議録を参考に、出された意見や問題点を検討して共有している。日頃から気軽に話し合う時間を持ち実践に繋げている。調理器具等の要望には即対応した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の実績、能力に応じた給与形態をとっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1度事業所内での研修を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の施設見学連携等で知識を得てサービスの向上に取り組んでいる。認知症実践者研修への支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に家族、ケアマネ、主治医との関係者から情報を収集し、本人との面談の上本人家族の意向に耳を傾け入居後は本人がなじめるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望、希望、不安や困りごとを聞く機会を設け、一緒に利用者様を支えていけるよう、相談を密に行い信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の状況を本人や家族、関係者からの情報を収集し、必要に応じて他のサービスの紹介を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、利用者様が安心して、生き生きと日常生活が過ごせるよう、日々取り組んでいる。一緒に過ごすことで、利用者から学ぶ事もある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用料の支払いを振り込みではなく、なるべく持参していただけるようお願いしている。通院介助や必要な物品等も持参していただけるように連携している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前の馴染みの方との関係が途切れないように、本人、家族に聞き面会や電話、手紙のやり取りが何時でも出来るようにしている。	今までの生活の延長になる様に支えて下さった人々との関係が途切れない様に事業所に来て頂いたり、家族の協力で馴染みの場所に出かけたりしていたが、コロナ禍で制限せざるを得ない状態となり、テラス・玄関での面会のみとした。感染対策を充分に取り、天候の良い日には近隣に散歩に出かけて地域の方々と会話をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その時々状況に応じ、1人1人が孤立せず、安心して共同生活を営めるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	事業所への訪問や、相談がしやすい環境づくりに努めている。依頼があればいつでも相談に応じ、可能な限りの情報提供も行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	これまでの生活や、ホームでの過ごし方を踏まえ、意向を「日常生活記録」に記入し、把握に努めている。困難な場合は、家族の思いや要望、本人、の言動等を元に検討している。	利用者の一日の流れや日常生活時の会話、家族からの要望や情報を傾聴し、思いや意向を把握して「日常生活記録」に本人の言葉を記入している。記録を参考にしてミーティング時に検討し、職員間で共有して支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族、関係機関等からの情報を収集し、入居前の生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝、夕の申し送りにて変化の状態を職員が共有し、個々の状況を記録、日常的に職員全員と意見を交換している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向を元に、介護計画に反映させている。	全職員でアセスメント・サービス担当者会議を開催している。毎月の職員会議でカンファレンス評価をし、4か月毎にモニタリング、終了後に計画を見直している。医師の意見は訪問診療時に、家族には面会時(コロナ禍で電話等)に意見・要望を確認し計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個別に記録し、朝夕の申し送りでも、利用者の細かな状況の変化にも対応できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状態の変化に伴い、柔軟に対応できるように努めている。外部との連携で体調の変化に伴い、主治医と連携し、共有できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア団体の把握に努め、暮らしを支えるうえで、協力していただけるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を優先し、通院介助は原則家族が行うが、必要な情報の伝達は、書面または電話連絡をしている。家族が困難な場合は施設が対応している。	協力医には健康診断や月1回の訪問診療を受け、夜間・緊急時・24時間対応が可能で協力体制が整っている。通院介助は基本家族が行い、必要な情報は書面で医師に伝えている為安心して受診できている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の健康管理や、服薬管理を状態の変化に伴い、協力医療機関に(主治医)と密に連携している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に際し、本人に関する情報を提供する共に、早期退院に向けた働き掛けを行っている。また、入院中の経過について定期的に問い合わせ、情報の交換や状態の把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合や終末期の援助について、事業所の考え方や、ホームで出来る事、出来ない事等を説明し理解を得ている。ホームでの看取り介護の希望がある場合は、主治医と家族の話し合う場を設け支援に取り組んでいる。	入居時に「看取りに関する指針」「旅立ちに向けて」で事業所で出来る事と出来ない事を十分に説明し、家族・利用者に理解を得ている。医師が終末期と判断した時には、家族・関係者と話し合い、方針を共有して介護計画を作成し支援に取り組んでいる。今年2名の看取りをした。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当のマニュアルを整備し、急変や事故発生時に対応できるようにしている。また、定期的な訓練(AED)救急救命講習をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害マニュアルに応じ、防空頭巾等を用いて、定期的に避難訓練をしている。	「災害時マニュアル」「職員の連絡網・役割分担表」等整備している。近隣の住民にも訓練の協力依頼は済んでいるが、今年はコロナ感染症予防対策の為に行っていない。終息すれば、前向きに取り組む予定である。	災害時において、利用者の安全確保やスムーズに避難が実施できるように、地域との協力体制の構築に向けて机上訓練を含め、更なる災害対策訓練を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人の尊厳を守り、羞恥心に配慮しながら支援を行うようにしている。職員は毎日のミーティング等で意識づけている。	利用者の言葉に耳を傾けプライバシーを損なわない言葉かけや、利用者が自分の好みの服装を着用できるようにさりげない支援を心掛けている。その上でトイレ介助時・入浴時等にはそっと寄り添い、思いやりを持ち接している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様との信頼関係を築く上で、1人1人の意思を尊重したかわりを日々心掛けている。また、利用者が不安に思っていること等を改善できるように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務の流れのみを優先することが無いよう、毎日の業務の中や、ミーティングの際に話し合うように心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えに際しては、出来る限り本人が衣類を選択できるように、その人の好みを尊重している。困難な場合は、その人の好みに合った衣類を選択するように心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好み・体調に合った栄養バランスを考慮し、「栄養士が立てた献立」「食材」を利用している。時には利用者様の希望を取り入れた献立での提供に心掛けている。	外部業者から食材を取り寄せて、業者の献立で主・副食共事業所で作っている。近隣住民の方から頂いた野菜やつくし等で家庭的な料理を1品加えて利用者は季節感を味わっている。料理の配膳等利用者に役割があり、出来る方は職員と一緒に手伝う事が生きがいになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事の量、水分量をチェックして、個別記録に残し、その人に合った食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のうがい、歯磨き、就寝前口腔ケア、鼻腔消毒、喉の消毒、義歯の清潔保持(洗浄剤に浸ける)等の支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人の能力や意思を尊重し、トイレでの排泄を優先に支援している。	排泄チェック表でパターンを把握してトイレ誘導をしたり、タイミングに合わせた声掛け誘導をして自立を促す支援をしている。自分で始末をする事を(汚れたパットの交換等)そっと見守って、2名の利用者の改善事例がある	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の排泄状況を記録し、利用者個々の排泄の状況を把握、また、主治医との連携で個々に見合った排泄の状況を支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回入浴している。入浴の好きな人、嫌いな人様々であるが、入浴前に気持ちの準備が出来るよう、早めに入浴日であることを告げる工夫をしている。また、拒否のある方には無理強いはいしないよう工夫している。	週3回入浴を基本としており、しょうぶ湯・ヨモギ湯で季節感を味わい、入浴介助の職員との会話をして笑顔で楽しく入浴できる時間になっている。また、個々の希望に合わせる事を心掛けて、笑顔で楽しく入浴できる工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人の体調に合わせ、無理のない範囲で運動「内外歩行」等で夜間の安眠に繋げる工夫をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容とその作用については、個別にファイルし、状況の変化について経過を観察し主治医に報告・相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者1人1人が役割や、楽しみを取り入れて生活できるよう取り組んでいる。毎月の行事企画に参加されている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花見、買い物等の外出援助を行っている。また、個別に家族と共に買い物や旅行、自宅での宿泊が日常的に行えるよう努めている。	今年はコロナ禍で十分な外出は出来ていないが、田園地の環境を利用して天候の良い日には事業所周辺の散策に出かけている。気分転換やリハビリを行う事は、健康管理にも役立っている。事業所農園には野菜や果物が栽培されて、外気浴を兼ねて収穫に出かけることも利用者の楽しみになっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	スーパーや近隣のコンビニへ買い物に出かけ、金銭の支払いが出来る方は、ご自分の好みの物を選び、支払いまで行って頂く支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやり取りは自由に行ってもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内の野菜、果物を一緒に収穫し楽しみ、施設内では様々なゲームで楽しんでいる。	食堂兼居間からテラスに出られ、日当たりも良く日光浴が出来る。大きなソファが置かれて座れば庭の景色が眼に入り、四季の移り変わりを満喫できる。コロナウイルス感染症予防の為、消毒・室温・湿度の調節・定期的な換気を行い、清潔な空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールは憩いの場としてスペースを広く取り、また開放的な大きな窓の外にウッドデッキが設置されている。窓からは、高速道路を走る車の様子、草花、果実、野菜などを眺める事のできる居心地の良い環境作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や、家族の写真、馴染みの物に囲まれ、安心して暮らせるように配慮している。	個々が自宅で使い慣れた物を持ち込み、居心地良く過ごせる工夫がされている。毎日、利用者職員と一緒に掃除をして清潔感があり、落ち着いた感がある居室である。就寝時に足元を小型カーペットで暖め、快眠できるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者様個々の状態に合わせ、居室ドアには目の高さに表札を掲示し、自己の部屋がわかりやすいように工夫している。また、トイレのドアにも居室同様に掲示している。迷いが見られた場合、その都度職員が対応している。		